

韓国農林畜産食品部 2020. 10. 13 10:22:02 プレスリリース

ASF 防疫推進状況 (2020 年 10 月 13 日)

<https://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE8JTJGyMjZJTJGbwFmcmEIMkY20CuyRjMyNDkzMSUyRmFydGNsVmlldy5kbyUzRmJic0NsU2VxJTNEJTI2cmdzRW5kZGVtdHIIMQIMjZiYnNPcGVuV3JkU2VxJTNEJTI2cGFzc3dvcmlMOQIMjZcmNoQ29sdW1uJTNEJTI2cGFnZSUzRDEIMjZyZ3NGZ25kZVN0ciUzRCUyNnJvdYUzRDEwJTI2aXNWaWV3TWluZSUzRGZhbHNIJTI2c3JjaFdyZCUzRCUyNg%3D%3D>

□ASF 中央事故收拾本部(以下‘本部’、本部長:キム・ヒョンス農食品部長官)は 10 月 12 日、京畿・江原地域の養豚農家 1288 戸に対する電話予察の結果、ASF 疑い等の異常は発見されなかったと明らかにした。

□本部は 10 月 12 日、使用可能な資源(消毒車両 189 台、人材 131 人)を導入し、境界地域の野生イノシシ陽性検出地点、周辺道路、農場進入路を集中消毒した。

○消毒車両 907 台(地方自治体・農協消毒車、広域防除器、軍提督車両等)を導入し、全国の養豚農場 6066 戸に対する消毒を実施した。

□本部は 10 月 12 日から華川郡の養豚農場 12 戸に対し専用飼料車両(3 台)を指定・運行し、感染予防措置を強化している。

○飼料工場で生産された飼料は、華川郡向けの専用車両へ移し替えられ、車両の消毒後に消毒済証が発行される。

○専用飼料車両が養豚農場へ進入する前に農場警戒所勤務者が消毒済証発行の有無を確認し、農場入口の消毒施設で再度消毒を実施する。

□本部は 10 月 12 日、16 例目の農場主が所有していた京畿道抱川市所在の養豚農場 2 戸(1833 頭)に対する予防的殺処分を完了した。

□一方、本部は野生イノシシへの対応も強化している。

○10 月 11 日までに発生農場周辺の広域フェンスの点検\*と、隙間の修復を完了し、イノシシの移動ポイント(19ヶ所)に忌避剤を散布した。

○10 月 10 日と 11 日には華川郡捜索チーム(59 人)と消毒チーム(8 人)が、発生農場周辺の野生イノシシの死体等感染源の除去のために派遣され、12 日からは ASF 非発生養豚農場近隣の山岳地帯等を対象に野生イノシシの死体の捜索と消毒を実施している。

□キム・ヒョンス、チュンス本部長は 10 月 12 日、ASF 防疫状況報告会(10 月 8 日から毎日開催)で「もみじの季節を迎え、登山が頻繁になり、野生イノシシ発生地域で養豚農場に汚染源が流入するリスクが高くなっている。養豚農場従事者は、国境地域では登山せず、一般登山客も農場や畜産施設への訪問を自制してほしい」と呼び掛けた。